

CODE : 7771

NI NISSEY GROUP

2014年3月期 決算説明資料

2014年6月



日本の“ものづくり技術”を世界へ。

Watch Band & Glass Frame

会社概要

- ◆ 社 名 : 日本精密株式会社 (Nihon Seimitsu Co., Ltd.)
- ◆ 住 所 : 埼玉県川口市本町4-1-8 川口センタービル8
- ◆ 設 立 : 1978年8月
- ◆ 上 場 : 東京証券取引所JASDAQ市場 (1997年9月25日)
- ◆ 代表取締役 : 岡林 博
- ◆ 事業内容 : 時計バンドの製造、販売, メガネフレームの製造、販売, イオンプレーティング (表面処理加工)、釣具用部品、静電気除去器、その他製品の製造、販売
- ◆ 連結子会社 : 3社、関係会社1社
- ◆ 従 業 員 : 2,841人(連結)
- ◆ 決 算 : 3月
- ◆ 資 本 金 : 1,565百万円
- ◆ 発行株式数 : 15,423,999株
- ◆ 株 主 数 : 1,322名





1. トピックス

2. 2014年3月期 業績の状況

3. 2015年3月期 業績予想

4. 今後の戦略

カンボジア新工場がオープン

NISSEY

NISSEY Cambodia Co., Ltd



- 名 称** NISSEY CAMBODIA CO.,LTD.
操 業 2014年 年初から
所 在 地 Dragon King SEZ, Prey Angkunnh Commune,
Bavet City, SvayRieng province, Cambodia
ドラゴンキング SEZ、カンボジア国スバイリエン州
バーベット市プレイアングン地区
代 表 者 岡林 博
資 本 金 5千万円
出 資 者 日本精密株式会社(100%)
決 算 期 12月31日
事 業 内 容 時計外装部品等の製造、販売



カンボジア王国の大臣や、カンボジア駐在大使も招き、 3月にオープニング・セレモニーを実施



代表取締役社長
岡林 博



カンボジア王国
首相補佐特命大臣
ソク・チェンダ大臣



駐劔特命全権大使
隈丸 優次 大使



開所式冒頭のテープカット



ソク・チェンダ大臣から、現地社員に直接お言葉をいただきました



カンボジア新工場の開所式の模様は、
カンボジア国営テレビのニュース番組
でも当日放映されました。



1. トピックス

2. 2014年3月期 業績の状況

3. 2015年3月期 業績予想

4. 今後の戦略

2014年3月期 連結業績概要

単位:百万円	2013/3期 実績	2014/3期	
		実績	前期比
売上高	5,585	7,054	+1,468
売上総利益	1,566	1,728	+162
売上総利益率	28.0%	24.5%	△3.5p
販管費	1,461	1,593	+131
販管費比率	26.2%	22.6%	△3.5p
営業利益	104	134	+29
営業利益率	1.9%	1.9%	+0.0p
経常利益	105	123	+18
経常利益率	1.9%	1.8%	△0.1p
当期純利益	90	114	+23
当期純利益率	1.6%	1.6%	△0.0p

売上高

円安効果もあり前年同期比で大幅増収

- 時計関連は、カシオ向け欧州向けともに大幅増収
- メガネフレームは、本社部門、子会社(株)村井ともに増収

営業利益・経常利益

粗利増加でマイナス要因を吸収し増益

- 増収効果により、粗利益が拡大

マイナス要因

- 人件費の増加
 - ・ベトナムの給与手当増(最低賃金法改正)
 - ・ベトナム工場の残業代の増加
 - ・円安ベトナムドン高による労務費の増加
- (株)村井の仕入代金が円安の影響で増加
- (株)村井の契約更新に伴うロイヤルティ増

当期純利益

経常損失の増加により、黒字額が拡大

- 大きな特益・特損計上がなく増益

報告セグメントの状況(連結)

報告セグメント別売上高

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
時計関連	2,492	2,983	3,664	3,350	4,521
カシオ関連	2,045	2,553	2,882	2,762	3,548
スイス・メーカー向け	446	450	782	587	973
メガネフレーム	1,354	1,830	1,977	1,953	2,188
その他	346	366	360	282	343
連結売上高	4,193	5,180	6,002	5,585	7,054

※カシオ関連には、カシオ製品向け部品の製造企業に対する売上高も含まれております。

報告セグメント別利益

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
時計関連	62	87	266	109	250
メガネフレーム	△165	73	21	2	△152
その他	△15	3	10	△28	21
報告セグメント外	79	42	35	21	14
セグメント利益	△39	207	334	103	134

◎時計関連

売上高

- ・カシオ関連は、同社の更なる増産に伴って新規及びリピートオーダーの受注が増加。さらに円安効果も加わり大幅増。また、当社製品の品質・技術レベルの高さが認知され、高級品向け製品も増加。
- ・スイス・メーカー向けは、提案営業の強化による中級品の受注増により大幅増。

セグメント利益

- ・増収による粗利益の増加により、ベトナム工場の人件費増を吸収して増益。

◎メガネフレーム

売上高

- ・本体のメガネフレーム部門(OEM製品)は、国内メーカーからの受注増、大手チェーン店向けの提案営業による受注増により大幅増。
- ・(株)村井のブランド商品は、新ブランド投入効果等により大手チェーン店向けが拡大。

セグメント利益

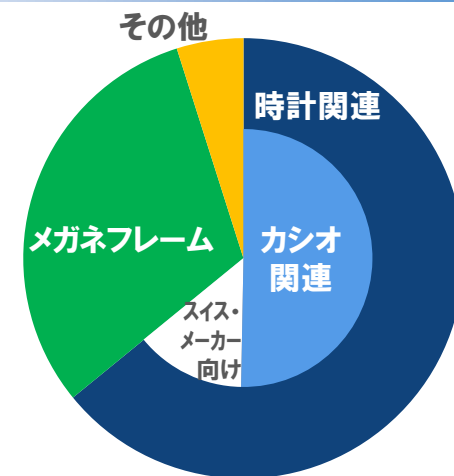
- ・(株)村井のロイヤルティ更新に伴う費用増、円安による仕入コストの上昇等により減益。

売上構成比の推移(連結)

売上構成比 (品目別)

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
時計関連	59.4%	57.6%	61.1%	60.0%	64.1%
カシオ関連	48.8%	48.9%	48.0%	49.5%	50.3%
スイス・メーカー向け	10.7%	8.7%	13.0%	10.5%	13.8%
メガネフレーム	32.3%	35.3%	32.9%	35.0%	31.0%
その他	8.3%	7.1%	6.0%	5.0%	4.9%

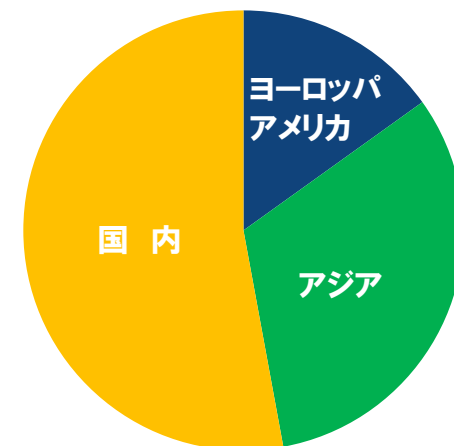
※カシオ関連には、カシオ製品向け部品の製造企業に対する売上高も含まれております。



2014/3 実績

売上構成比 (地域別)

	2010/3	2011/3	2012/3	2013/3	2014/3
ヨーロッパ・アメリカ	34.0%	16.2%	37.5%	18.2%	15.1%
アジア	33.2%	37.2%	13.8%	28.9%	32.0%
国内	32.8%	46.6%	48.7%	52.9%	52.9%



2014/3 実績

B/S、CFの状況(連結)

単位:百万円	2013/3末	2014/3末
流動資産	2,522	2,618
現預金	799	781
受取手形・売掛金	826	861
たな卸資産	842	896
その他	54	78
固定資産	1,056	1,840
有形固定資産	661	1,234
無形固定資産	302	472
投資その他の資産	92	134
繰延資産	—	24
総資産	3,578	4,484
流動負債	1,314	1,435
支払手形・買掛金	598	568
短期・1年内長期借入金	562	700
その他	153	167
固定負債	645	1,307
長期借入金	545	1,203
その他	99	104
純資産	1,619	1,740
株主資本	1,623	1,737
その他の包括利益累計額	△3	3
負債純資産合計	3,578	4,484

単位:百万円	2013/3期	2014/3期
営業キャッシュ・フロー	△125	40
税前当期純利益	109	124
減価償却費	113	127
売上債権の増減額	△225	△35
たな卸資産の増減額	△119	△69
仕入債務の増減額	36	△29
その他	△13	△29
小計	△98	93
利息及び配当金の受取・支払額	△18	△34
法人税等の支払額	△9	△17
投資キャッシュ・フロー	△290	△961
フリー・キャッシュ・フロー	△416	△821
財務キャッシュ・フロー	290	779

固定資産の増加要因

- ・有形固定資産:建物構築物 +294百万円…ベトナム工場
建設仮勘定 +342百万円…カンボジア工場
- ・無形固定資産:借地権 +255百万円…カンボジア工場
借地権仮勘定 ▲74百万円…カンボジア工場



1. トピックス

2. 2014年3月期 業績の状況

3. 2015年3月期 業績予想

4. 今後の戦略

2015年3月期のポイント

事業

◎ カンボジア工場の導入・拡大ピッチの早期化

- ・カンボジア新工場の本格化に向けて、従業員の技術教育のスピードをアップ。
- ・時計関連製品への受注拡大が続く中、当初の計画よりも前倒しで、品質の安定化、製造ラインの拡大、生産量の増加を図り、早期の戦力化を図る。

◎ 時計関連

- ・高級腕時計バンドの受注が拡大。生産量拡大・製造技術の高度化対応するため、ベトナム工場の金型生産能力の増強、自動化・半自動化を推進する。

◎ メガネフレーム

- ・(株)村井のブランドフレームにおいて上半期に新たな3ブランドを投入。付加価値商品の投入により、高価格・高利益率の商品中心での展開を図る。

業績

◎ 連結売上高

- ・時計関連、メガネフレームともに好調に推移し、過去最高を更新する見込み。

◎ 営業利益/経常利益

- ・営業費用増を吸収し、前期比増加を見込む。

◎ 当期(四半期)純利益

- ・経常利益の増加により前期比増加となり、2Q累計も黒字転換を見込む。

2015年3月期 連結業績予想

2015年3月期 連結業績予想

単位:百万円	2014/3期 実績	2015/3期	
		予想	前期比
売上高	7,054	7,877	+824
営業利益	134	189	+55
経常利益	123	161	+38
当期純利益	114	120	+6

2015年3月期 2Q累計 連結業績予想

単位:百万円	2014/3期 2Q累計 実績	2015/3期 2Q累計	
		予想	前期比
売上高	3,337	3,659	+322
営業利益	3	34	+32
経常利益	△9	20	+29
四半期純利益	△12	13	+25

売上高

- 時計関連、メガネフレームともに増収となり、前期比で2ケタ増収を見込む。
- カンボジア新工場は、稼働初年度のため売上高への影響は限定的。

営業利益・経常利益

- ベトナム工場の増強や、カンボジア工場の稼働に伴う人件費増を、増収に伴う売上総利益の増により吸収し、前期比増益を見込む。

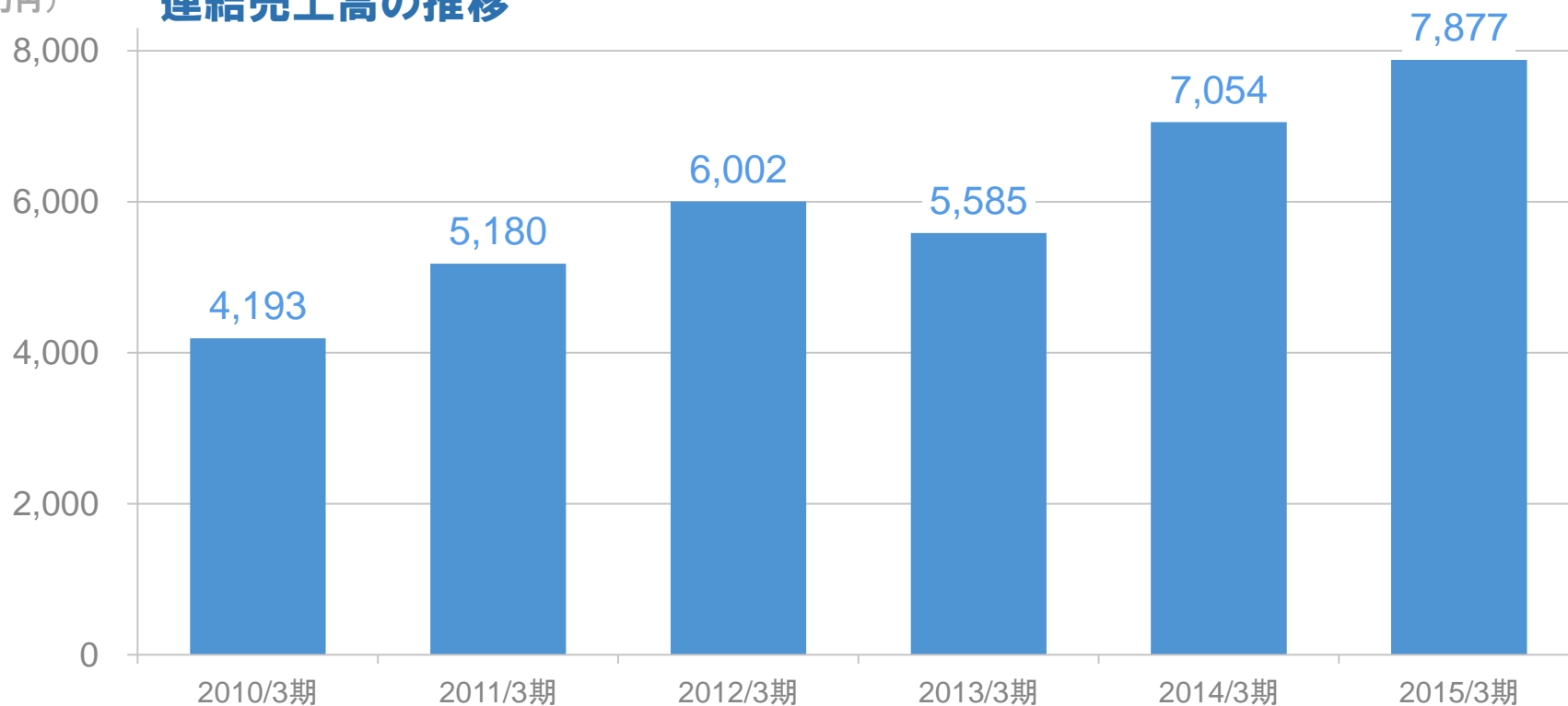
当期(四半期)純利益

- 経常利益の増益を受け、当期純利益・四半期純利益(2Q累計)ともに、前期比増加を見込む。

業績推移

(百万円)

連結売上高の推移



売上高	4,193	5,180	6,002	5,585	7,054	7,877
営業利益	△39	207	334	103	134	189
経常利益	△56	156	295	105	123	161
当期純利益	△52	172	296	90	114	120

報告セグメントの業績予想(連結)

報告セグメント別売上高予想

	2014/3 実績	2015/3 予想	増 減
時計関連	4,521	5,046	+525
メガネフレーム	2,188	2,450	+262
その他	343	380	+37
連結売上高	7,054	7,877	+823

報告セグメント別利益予想

	2014/3 実績	2015/3 予想	増 減
時計関連	250	167	△83
メガネフレーム	△152	△14	+138
その他	21	28	+7
報告セグメント外	14	8	△6
連結営業利益	134	189	+55

◎時計関連

売上高

- ・カシオ関連は、同社の更なる増産に伴って当期も受注が増加する見込み。
また、当社製品の品質・技術レベルの高さが認知され、高級品向け製品も増加を見込む。

セグメント利益

- ・売上高は順調に増加する一方、ベトナム工場の増設や高級品向け製品の製造に向けた設備拡張、金型生産能力による消却額や、カンボジア工場の稼働により人件費が増加。

◎メガネフレーム

売上高

- ・本体のメガネフレーム部門(OEM製品)は、国内メーカー向け、大手チェーン店向けともにの提案営業による増加を見込む。
- ・(株)村井の新ブランド投入の効果等により、ブランドフレームは当期も増収を見込む。

セグメント利益

- ・(株)村井の新ブランド投入など付加価値商品の投入により、赤字額的大幅縮小を見込む。



1. トピックス

2. 2014年3月期 業績の状況

3. 2015年3月期 業績予想

4. 今後の戦略

現在の状況

中国での部品製造は、人件費高・元高などの要因で原価が上昇し、価格上昇→競争力低下→廃業→供給力低下→価格上昇・・・という負の連鎖が起こっている。

また、熟練工の不足が深刻化し、時計関連・眼鏡関連の部品工場が、相次いで倒産・廃業する状態も、それに拍車をかけている。

日系企業だけでなく欧米企業も供給リスク・価格アップリスクから部品調達先を新たに模索。

時計関連・メガネフレームの部品製造の中心であった中国が苦しむ状況の中

日本精密グループは

→ なぜ
新たな発注・新規取引の希望が来るのか？

→ なぜ
増産をしつつ、高品質を維持できるのか？

→ なぜ
高品質を維持しつつ、利益をとれるのか？

→ 今後も、
継続して増産体制を構築できるのか？

→ 今後も、
成長力を維持できるのか？

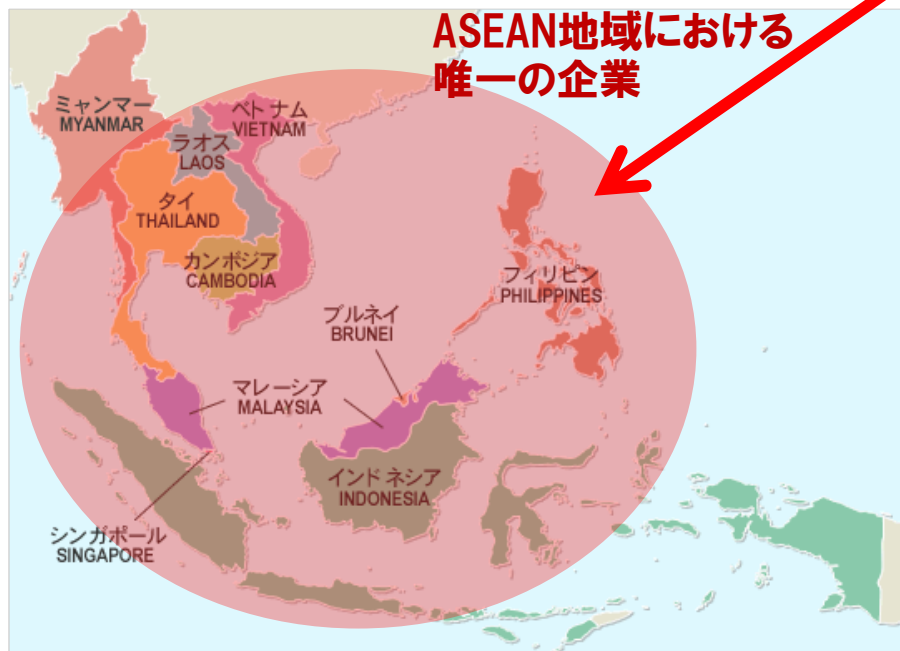
Q. なぜ、新たな発注・新規取引の希望が来るのか？

A. ASEAN地域において、金属部品の一貫生産体制を構築し、品質管理・コスト低減などのメリットを提供できる唯一の企業であり、かつ日本の上場企業という信用力を有するため。

一貫生産体制



加えて、IP(イオンプレーティング)、レーザー加工など高度技術も有す。



一貫生産体制のメリット

製造工程別に多数の企業・工場が関わる分業制との違い

● 品質リスク等の低減

分業制では、部品の納入段階で不具合が発見されると、どの工程、どの会社の責任か、その対応は誰が行うか等の様々な問題が発生するが、そのリスクがない。

● 製品の安定供給

分業制では、製造工程のいずれかの企業・工場で問題が発生した場合には、それ以降の工程が止まり、最終的にはセットメーカーの製造計画にも影響するが、そのリスクがない。

● 価格・コスト

分業制では、工程の各段階で、各社が利益を乗せるほか工場間の物流費が発生。そのため最終的には一貫生産を行う当社も、高い価格競争力を有する。

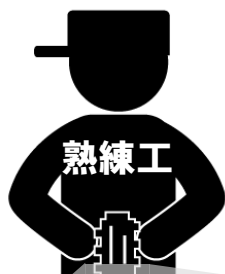
Q. なぜ、増産をしつつ、高品質を維持できるのか？①

A. 中国型の熟練工中心の製造ラインでは、ASEANで展開しても、将来は同じ問題が発生。当社は、増産と高品質を両立するために、部品製造の仕組み自体を変革しています。

熟練工中心の場合のリスク、デメリット

- 人件費の高騰・高額化
一般ワーカーの人件費も高騰している上、さらに3～4倍の賃金。
- 人員が確保が困難
高齢化で熟練工が不足。育成に時間がかかる上、希望者も少ない。
- 生産上のリスク
全工程を担当するため、欠員が生産ライン全体に影響。

仕組みを
変える



●●●
工程

▲▲▲
工程

◆◆◆
工程

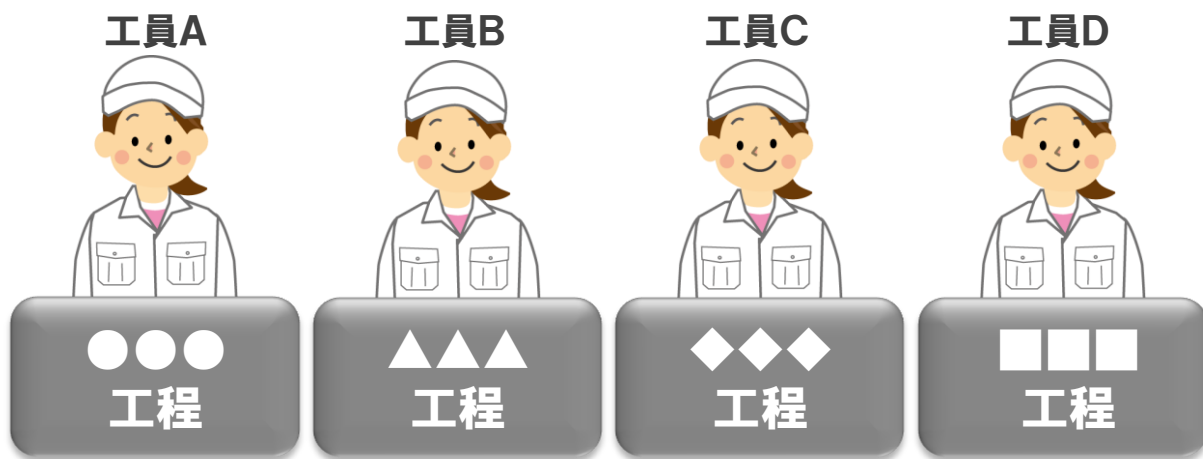
■ ■ ■
工程

● ● ●

← 全ての工程を、1人の熟練工が担当 →

Q. なぜ、増産をしつつ、高品質を維持できるのか？②

A. 熟練工が一人で担当していた工程を、独自のノウハウで複数の工程に細分化。
多数の『ミニ熟練工』を育成することで、増産と高品質を両立する仕組みを構築しています。



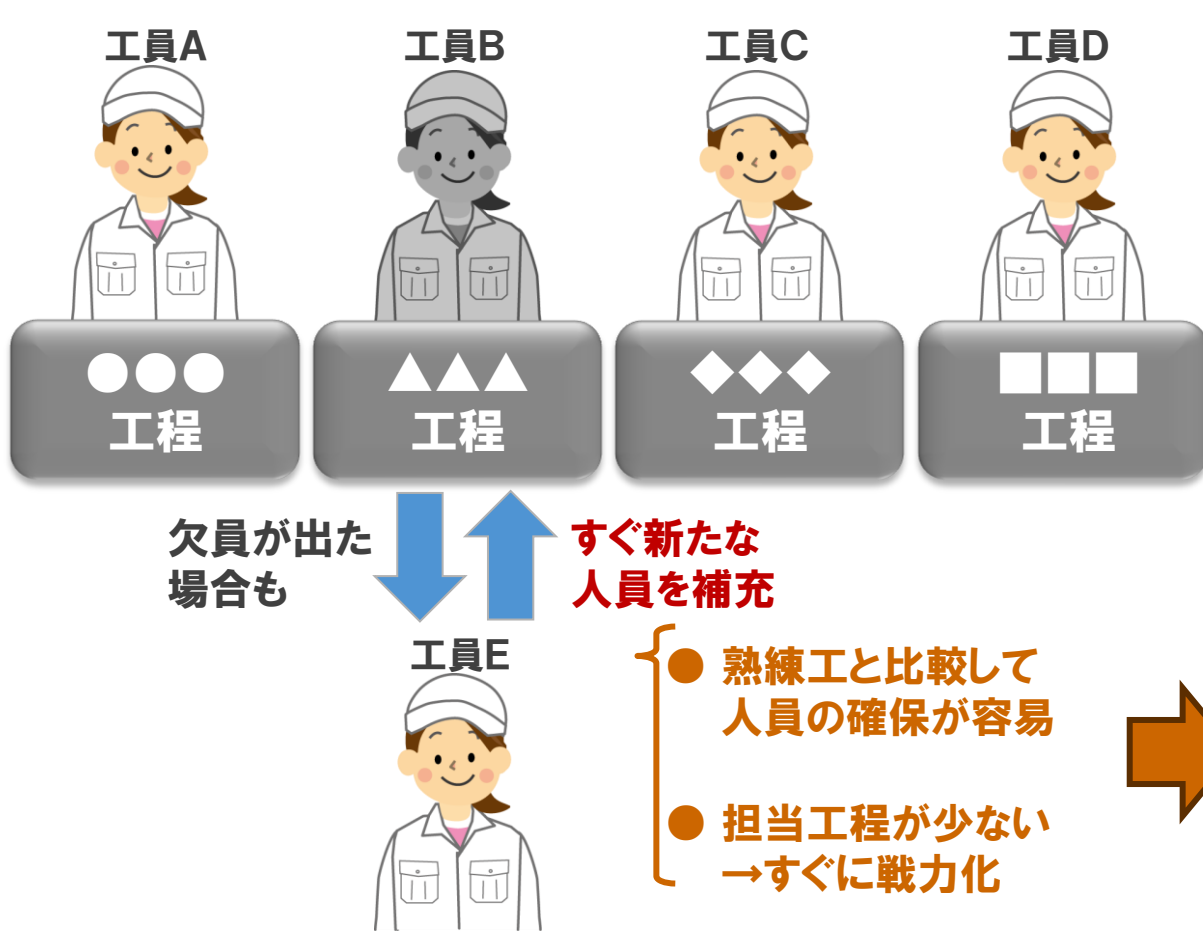
- 熟練工が1人で行っていた工程を細分化
- 細分化した工程別に、一般ワーカーを教育
- 教育した一般ワーカーを、製造ラインに配置
- 教育期間が短いため、短期間で実際の製造開始
- 担当工程が少ないため、短期で『ミニ熟練工』化



- ・ 工程の細分化の仕方
 - ・ 配置人員数と労務コスト
 - ・ 教育、育成ノウハウ
- など、長年のノウハウ蓄積を有しているからこそ出来る
当社独自の製造ライン構築

Q. なぜ、高品質を維持しつつ、利益をとれるのか？

A. ASEANのベース賃金の低さ、熟練工と比較して低い一般ワーカーの賃金水準、工程細分化による製造コスト安定化により、高品質と価格競争力、利益を両立しています。



品質と利益を両立する“もの”作りの仕組み

ベース賃金の低さ

- ・ベトナム ……中国の6割以下
- ・カンボジア……中国の3割以下

一般ワーカー中心の人員

- ・熟練工の賃金の3割以下

製造原価(労務費)の安定化

- ・一般工員中心の製造ライン

- ・製造ラインの安定化

- ・計画通りの生産計画を達成

Q. 今後も、継続して増産体制を構築できるのか？

A. 顧客からの受注の拡大が続く中、工程細分化という仕組みと、ベトナムからの技術導入で、早期にカンボジア工場の戦力化を図ることで、受注拡大に応じてまいります。



ベトナム

仕組みの導入
ベトナム工場
で蓄積した
ノウハウ

他社では困難な早期戦力化を実現
仕組みの導入

ベトナム工場
で既に製造
している部
品のため、
その製造
ラインの
ノウハウと
仕組みを、
そのまま
導入

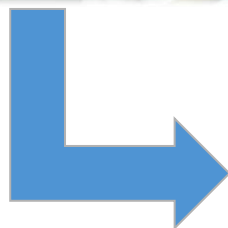
ベトナム工場
で立上げ
時の
ノウハウを
そのまま
導入



技術指導者の導入

両工場は
近距離
である
ため、
ベトナム
工場の
技術者
を短期
に、
大量
投入

ベトナム
工場の
技術
指導
ノウハウ
を
そのまま
投入

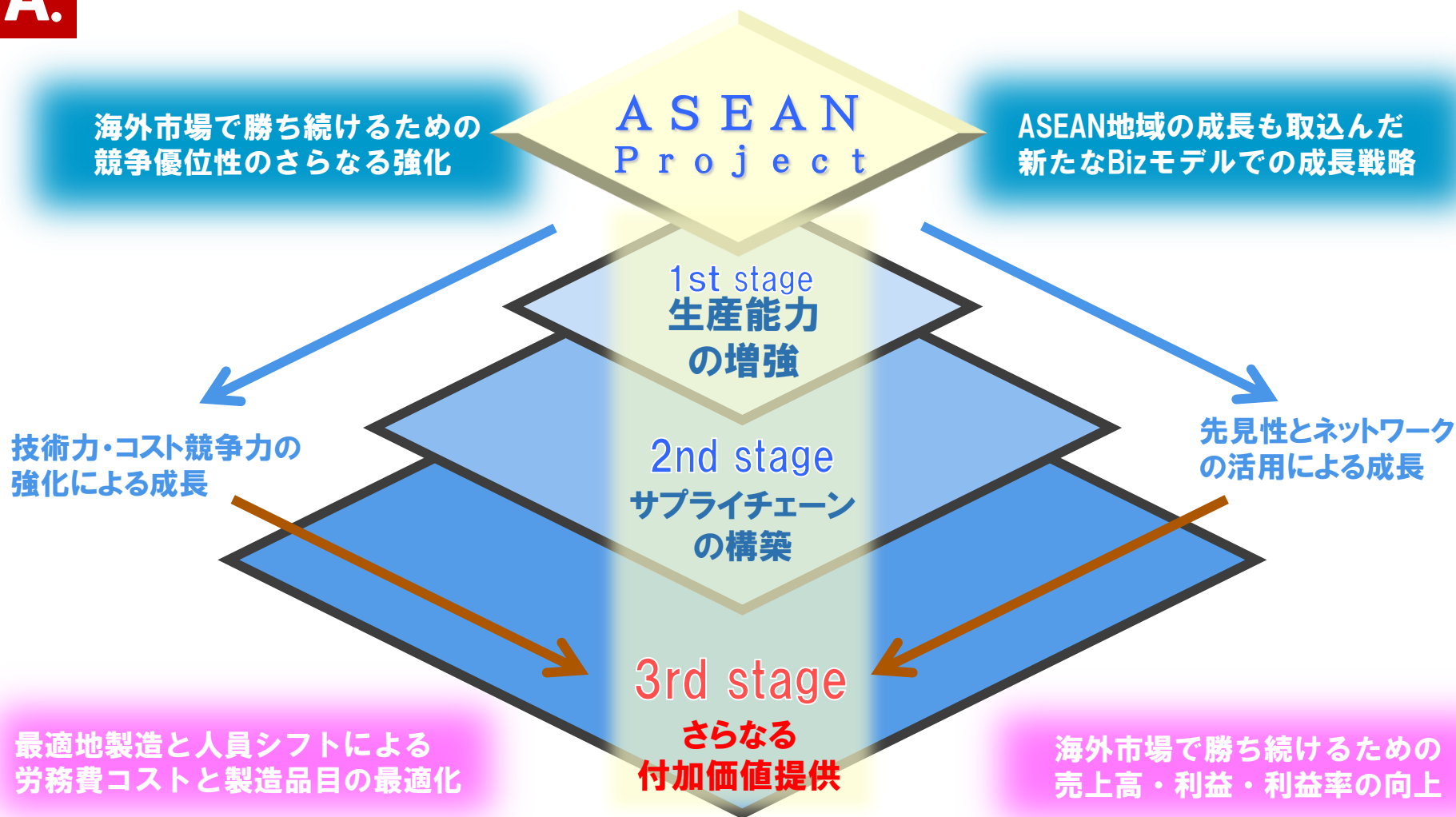


カンボジア

技術指導者の導入
車で2時間の近距離にある地の利を活かし、加工技術、製造工程を迅速かつ正確に移管

Q. 今後も、成長力を維持できるか？ ASEANプロジェクト

A. ASEAN地域の成長力をも取り込む「ASEANプロジェクト」により、今後も成長していきます。



Q. 今後も、成長力を維持できるか？ ベトナム工場の強化

A. ASEANプロジェクトの核となるベトナム工場の強化に向けて、以下の施策を実施。
高付加価値・高利益の製品を生み出すことで、収益を拡大してまいります。



① 半自動化・オートメーション化

・今後のさらなる生産能力の拡大、生産効率の向上、利益率アップに向けて自動化を推進。

→ 既に設備投資を開始

② 金型製作の強化

・金型製作の技術・生産効率をさらにアップ
・カンボジア工場用も一括製作し、経営効率をアップ

→ 今後の製造品目・数量の増加へ対応すると同時に、原価率を低減

③ 高度技術の強化、高付加価値製品の製造

・より高い付加価値製品である『鍛造ベゼル』を製造
・表面処理(IP、アルマイトなど)の技術をさらに強化

→ 市場・顧客のニーズに応えた高付加価値製品の製造

④ 新規製品の製造

・高級腕時計バンドなど時計関連の高付加価値製品を製造

→ 顧客のニーズに応え、新たな製品分野にも進出

Q. 今後も、成長力を維持できるか？ ベトナム収益力向上

A. 労働集約型の製品の製造をカンボジア新工場に移管。高付加価値品・高利益率品へ製造ライン・人員をシフトすることにより、ベトナム工場の収益力が向上いたします。

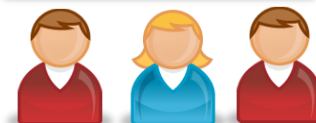
普及～中価格帯向け
時計関連部品



現在の生産量
月産
30万個強

カンボジア工場へ労働集約型の製品を移管
自動化により生産に必要な人員数へ集約

月産
18万個弱



製造ライン・人員のシフト

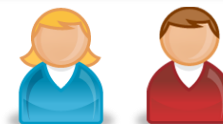
鍛造ベゼルの製造

月産
8万個強



新規製品の製造

高級品向け
時計関連部品

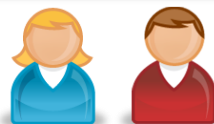


現在の人員

メガネフレーム
の増産

月産
2万個増

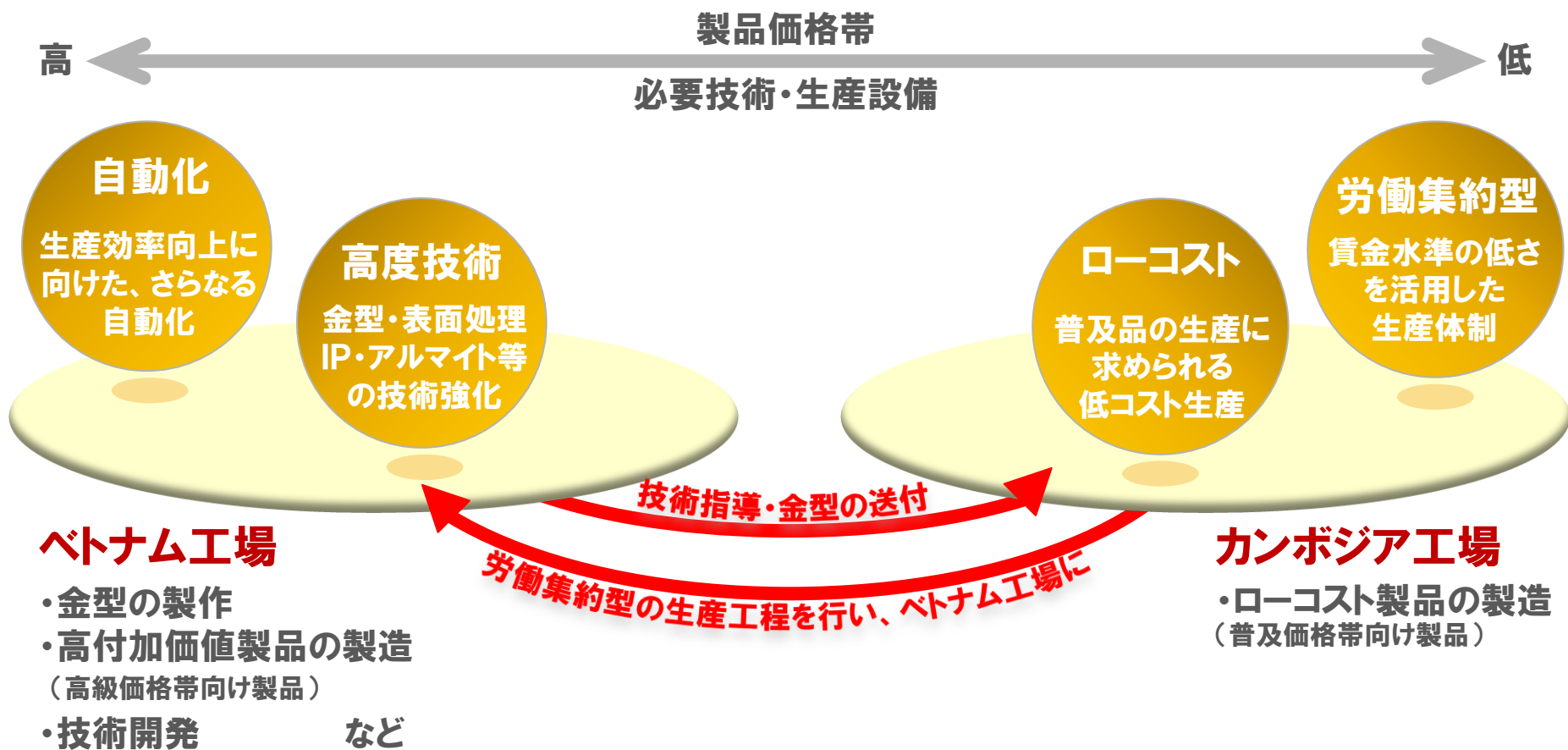
現在の人員



※ 鍛造ベゼル
絞りベゼル製造と比較して、
高度な製造技術が必要。
一方、単価が3～5倍になる
高級時計向けの製品。

Q. 今後も、成長力を維持できるか？ 2工場の有機的な連携

A. ローコスト製品をカンボジア新工場に移管し、高級品、新製品をベトナム工場で製造。あらゆる価格帯の製品で「利益の出る仕組み」を導入し、売上高・利益の増加を図ります。



Q. 今後も、成長力を維持できるか？カンボジア工場の発展

A. カンボジア新工場は、ローコスト製品の製造拠点としてだけでなく、敷地内に中国の協力工場を誘致することで一大サプライチェーンを構築。収益の大幅増を図ってまいります。



カンボジア新工場の129,600㎡[※]に及ぶ広大な当社敷地。

※129,600㎡:当社ベトナム工場の約5.7倍
(東京ドームの約2.8倍)の面積

現在、製造メーカーの苦境が続く中国国内の当社協力工場を誘致し、一大サプライチェーンを構築する。

- ①時計製造に必要なあらゆる部品メーカーを当社敷地内に誘致
- ②当社工場を中心とした時計関連部品の一大サプライチェーンを構築
- ③当社(カンボジア法人)が顧客の需要を取りまとめ一括受注
- ④検品業務等も含め顧客に一括して販売



Q. 今後も、成長力を維持できるか？さらなる成長へ向けて

A. 現在の部品製造に関する世界的な問題は、時計関連・メガネフレームのみに留まりません。当社グループの有する製造技術や品質・コスト競争力を、さらに広く展開してまいります。



現在の製品領域

ASEANプロジェクトの推進による成長戦略を推進

ASEAN地域を一体と考えた 戦略的生産体制を構築



本社(埼玉県川口市)

経営の根幹である経験豊富な人間力で、企画開発・販売計画など、全てを一元管理。また、一貫した経営管理によりコスト削減。

(株)村井:連結子会社

エヌエスジー(株):連結子会社

香港支店

ベトナムでの製造不可能な部品を低コストで中国より調達。また営業・販売の基点として重要な役割を今後も担う。

NISSEY VIETNAM CO.,LTD.

- ◎時計外装部品等の製造
- ◎メガネフレームの製造
- ◎釣り具部品等の製造 他

中・高級品向け製品を製造

同時に、今後も当社グループの技術開発の中心としてさらに強化

NISSEY CAMBODIA CO.,LTD.

- ◎時計外装部品等の製造

普及品向け製品を製造

将来的には、隣接地に協力工場等を誘致し、
一大サプライチェーンを構築

中期経営目標

連結

単位:百万円	2014/3	2015/3 今期見込
売上高	7,054	7,877
■ 時計関連	4,521	5,046
■ メガネフレーム	2,188	2,450
■ その他	343	380
営業利益	134	189
経常利益	123	161
当期純利益	114	120

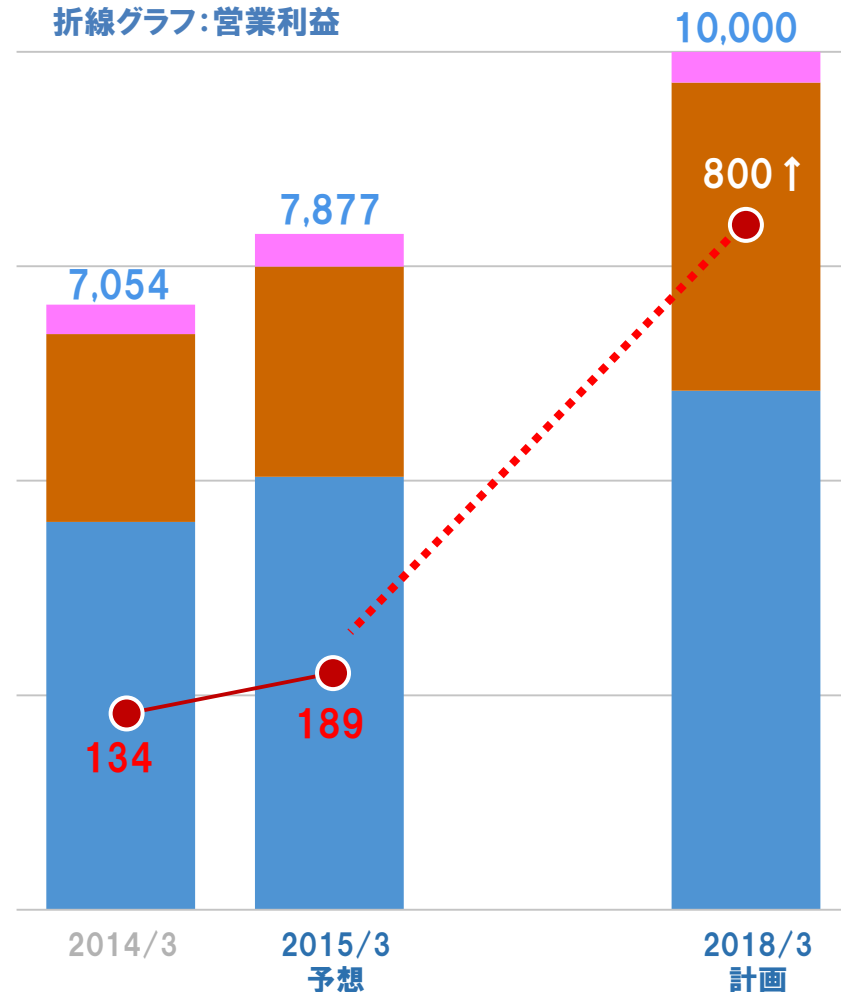
EPS	7.50円	7.89円
営業利益率(%)	1.8%	3.5%



2018/3 計画
10,000
6,050
3,590
360
800 + α
700 + α
600 + α

39円 以上
8%以上

棒グラフ : 売上高
折線グラフ: 営業利益



CODE : 7771



日本精密株式会社



日本の“ものづくり技術”を世界へ。

Watch Band & Glass Frame

本資料は、2014年3月期の業績概要および2015年3月期業績予想、並びに今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は注記のない限り2014年3月31日現在の決算データ及び直近の事業データに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測などは、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。